

平成30年度滋賀県「学校を核とした地域力強化プラン」第2回研修会 および「学校と地域を結ぶコーディネーター担当者」等新任研修 開催報告

1. 目的 県では、地域の力を学校教育に生かす仕組みづくりを整え、社会全体で学校や子どもの体験活動を支援する取組や、地域とともにある学校づくりを推進している。
地域による学校の「支援」活動から、地域と学校のパートナーシップに基づく双方向の「連携・協働」による取組へと発展していくために、県内各学校の校務分掌に位置付けられている「学校と地域を結ぶコーディネーター担当者」等と地域コーディネーター等関係者がともに、それぞれの役割や具体的な方策について学ぶ機会とする。
2. 主催 滋賀県教育委員会
3. 対象 (1) 「学校を核とした地域力強化プラン」関連事業実施市町担当者
(2) 学校教職員
(3) 各市町生涯学習・社会教育担当者
(4) 各市町学校教育担当者
(5) 子育て支援機関関係者
(6) 地域住民
4. 日時 平成30年8月2日(木) 9:30~11:50
5. 日程
 - 講演 演題：「学校と地域を結ぶコーディネーター担当者、および地域コーディネーターの具体的な役割について」
講師：NPO法人スクール・アドバイス・ネットワーク 理事長 生重幸恵 氏
 - ワークショップ
6. 場所 コラボしが 3階 大会議室
7. 参加者数 124名
8. 概要
 - ・講師より、地域と学校の連携・協働の意義やコーディネーターとしての役割について、学校の実態を踏まえながら、具体的な事例をもとに説明いただいた。
 - ・後半のグループ協議では、講師のファシリテートのもと、参加者の皆さんが「学校と地域の連携・協働を進めていくために、どのような工夫ができるか。(教員・地域の方の意識改革)」「『開かれた学校』づくりを進めるにあたり、防犯・安全等セキュリティ対策においては、どのような工夫をすることができるか。」をテーマに意見交換し、連携・協働の在り方について主体的に学んでいただくことができた。
9. 参加者のアンケートより
 - 具体的な例を入れて話され、コーディネーターの役割の重要性を改めて認識できた。地域のつながりを見直し、より活動のネットワーク作りを進めていきたい。他の地域との情報交換は新鮮でした。
 - 生重さんのお話は何度聞いても元気がもらえる。教職員とコーディネーター合同の研修スタイルもよかったと思った。
 - 地域の人材を生かすことで、学校も負担が減り、地域も出番が増えて活性化するそのようなビジョンを地域学校が共通理解し「子どもの育ち」という目標を共有できるとよいと思った。そのヒントを講義から聞くことができた。
 - 教師は「自分でやらねば」と思うところが強いけれども、もっと意識をかえて、地域とつながり、協力していただくようにしていけばいいのだと感じた。ただ、そのためにはお互いの話し合いは十分にしないといけないことを教えていただいた。
 - 地域と学校を結ぶコーディネーターの実践の話では、目頭が熱くなった。良好な関係を作り、信頼関係を築くとは、簡単に言えるが、実際は人と人との本音を交えながらも真剣に地域や子どもがどうあるべきかを熱心に、時に泥くさく語り合うことが必要だと思った。

